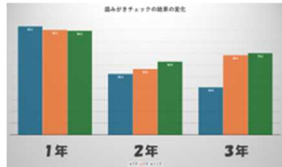


【授業実践振り返りカード】

学校名	富士見中学校	学年	3年（保育園実習）
授業者氏名 家庭科・渡辺 莉子			
題材名 「 幼児との関わり 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 これまで健康教育について学び、保育実習を控える生徒が、幼児の発達段階や心身の特性に着目し、活動への導入として「パタカラ体操」を取り入れることを通して子どもの緊張を和らげ、安心して関われる雰囲気になるように工夫し、保育の場において相手の状態を考えながら適切に働きかける力を培うことができる。			
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） 「パタカラ体操」			
成 果 「子どもとの距離を縮め、場の雰囲気を和らげるための導入」として実施することができた。事前に小学生と体験していたこともあり、体操をすると園児の表情がやわらぎ、笑顔や自発的な発話が増えるなど、活動後に円滑に次の保育活動へ移行できた場面が多く見られた。この様子からアイスブレイクとしての効果を実感することができた。 また、生徒も園児の様子を見取りながら関わろうとする姿勢を示しており、保育において「まず安心感をつくること」の重要性を体験的に理解することができた。			
課 題 園児に「パタカラ体操」の目的を伝えることや健康につながることにほとんど触れることができなかった。			

【授業実践振り返りカード】

学校名	富士見中学校	学年	全校（生徒集会）
授業者氏名 生徒会 保健委員会			
題材名 「 歯と口の健康についてまとめ 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 4月から歯みがき習慣の確立を目指して活動してきた保健委員会の生徒が、これまでの活動のまとめを発表することを通して、生徒たちの自己肯定感を高めるとともに、歯と口の健康についての意識の高まりを継続することができる。			
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点 ・ KYT のイラスト等） ・ 歯みがきチェックのまとめ（グラフ） ・ いーあーいートレーニング、パタカラ体操			
成 果 5月、6月、11月の歯みがきチェックのまとめを提示した。1年生は高い割合で継続できていた。2年生は回を重ねるごとに歯みがき実施率が上がっていた。3年生は「歯と口の健康週間①」での呼びかけにより実施率が上がり、それが継続できていた。それぞれの学年のよかった点をグラフによって評価することで、さらなる歯みがき率の向上を図ることができた。 また、翌日歯みがきチェックをすると予告したことで、歯みがき率が向上し、その日をきっかけに歯みがきをする人が増えるならばとチェック活動は効果があるのではないかと考えた。			
課 題 結果の共有と歯みがき率に因果関係があるかは定かではないが、学年ごとのよさを認めたことで、歯みがき実施率を向上させたい気持ちにはつながれたと考えたい。今後さらに継続させていくにはどのような手立てがあるのか考えていきたい。			